
KITZ

取扱説明書

青銅 10K 定流量器内蔵ボール弁 [定丸]

この度は、弊社製品をご購入いただき、ありがとうございます。

弊社製品を、長期間正しくご使用いただくために、施工・使用される前に、必ず本製品の取扱いを規定する本取扱説明書を最後までお読みください。また、お読みいただいた後は、本製品を取扱われる方がいつでも見ることのできる場所に、必ず保管してください。

図書番号:KJ-1018-02

本取扱説明書は、青銅 10K 定流量器内蔵ボール弁 [定丸] に適用します。

安全上のご注意

製品をより安全にご活用いただくために、必ず安全上の注意事項を最後までお読みの上、正しくご使用ください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく使用いただき、使用に際しての人的危害や物的損害を未然に防止するためのものです。

また、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するため、本取扱説明書では想定される被害の内容を【警告】と【注意】に区分しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。



この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お願い

本取扱説明書は、バルブの運搬・保管、配管取付、操作・運転、保守をご担当になる方々に、バルブの正しい扱い方をご習得頂くための説明書です。

運搬・保管、配管取付、操作・運転、保守作業に入られる前に、必ずこの取扱説明書をご一読くださるようお願い致します。

本取扱説明書は、バルブの運搬・保管、配管取付、操作・運転、保守について、想定される全ての状態を説明し尽くしていません。もし、本取扱説明書について不明な点がございましたら、最寄りの(株)キッツ支社/支店または営業所までお問合せをお願いします。

本取扱説明書で明示してあります、操作・保守・点検上の基準値・制限値は、バルブの保守管理を考慮して定めたものです。基準値・制限値を外れない範囲でご使用ください。

本取扱説明書に使用しました、ご説明用の図面類は基本的なことだけを示したものです。該当する製品の納入品図を参照してください。

本取扱説明書の内容は予告なく変更する場合があります。

図書番号:KJ-1018-02

バルブの故障・補修等のご連絡の際は、以下の項目をご確認の上、ご購入店か最寄りの弊社営業所にご連絡ください。

購入・設置年月 購入店名 製品名(製品記号・口径) 流体の種類・圧力・温度
使用頻度・操作条件 配管部環境 故障・補修部要請の詳細
会社名及び設置場所の住所・電話・担当部署・氏名

本社 〒261-8577 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-10-1

国内営業本部

北海道支店

北海道営業所 TEL.(011)708-6666

東北支店

東北営業所 TEL.(022)224-5335

北関東支店

北関東営業所 TEL.(048)651-5260

新潟営業所 TEL.(025)243-3122

東京支社

東京第一営業所 TEL.(03)6836-1501

東京第二営業所 TEL.(03)6836-1501

千葉営業所 TEL.(043)299-1706

横浜営業所 TEL.(045)253-1095

中部支社

名古屋第一営業所 TEL.(052)204-1061

名古屋第二営業所 TEL.(052)204-1062

東海営業所 TEL.(050)3649-3002

北陸営業所 TEL.(076)492-4685

甲信営業所 TEL.(0266)71-1441

大阪支社

大阪第一営業所 TEL.(06)6541-1178

大阪第二営業所 TEL.(06)6533-1715

中国支店

広島営業所 TEL.(082)248-5903

岡山営業所 TEL.(086)226-1607

九州支店

九州営業所 TEL.(092)431-7877

給装営業部

給装第一営業所 TEL.(03)6836-1505

機械装置営業部

機械装置第一営業所 TEL.(043)299-1734

プロジェクト統括部

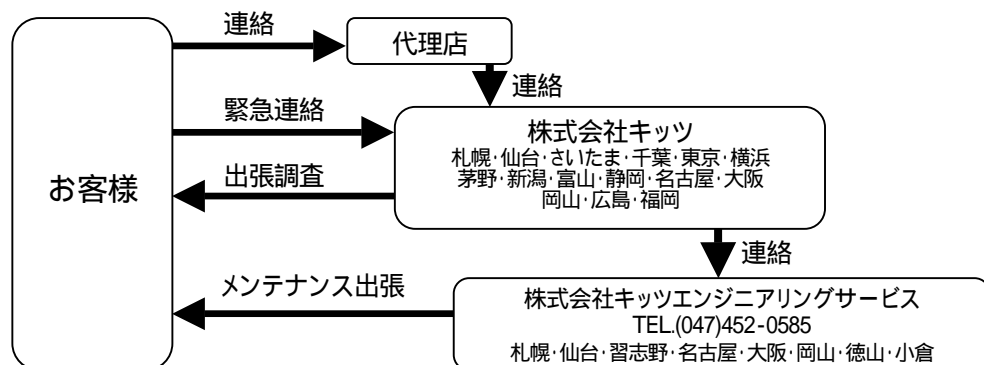
プロジェクト営業部

プロジェクト第一営業所 TEL.(043)299-1719

プロジェクト第二営業所 TEL.(06)7636-1060

調節弁営業所 TEL.(043)299-1773

KITZ のサービス体制



目 次

	頁
第 編 構造と機能	1
第 編 配管設計	5
第 編 運搬・保管	7
第 編 配管取付	9
第 編 操作・運転	13
第 編 定期点検	17
第 編 分解・組立	20

第 編 構造と機能

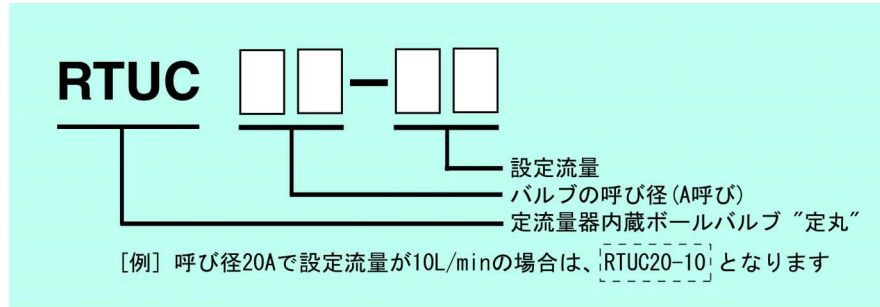
第 編 構造と機能

1.製品仕様

製品名

青銅 10K 定流量器内蔵ボールバルブ [定丸]

製品記号



仕様

サイズ	15A, 20A, 25A
接続形状	1次側：管用テーパめねじ 2次側：管用テーパおねじ
制御差圧範囲	0.15～0.49MPa (1.5～5.0kgf/cm ²)
流量制御誤差	5L/min.: +20%, 6L/min. and over: +15%
最高使用圧力	1.0MPa (10.2kgf/cm ²)
使用流体温度	0～+60
カートリッジ設定流量	下表を参照

(注)*1 定流量カートリッジは樹脂材料を採用していることから、残留塩素を含んだ流体(給水/給湯)には使用しないでください。

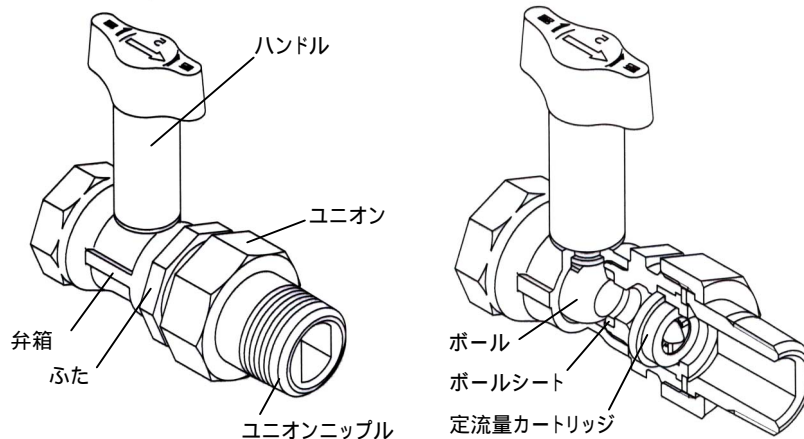
カートリッジ設定流量

設定流量は、ハンドル部に表示してあります。

呼び径		5	6	7.5	8	10	12.5	15	17.5	20	25	30
A	B	黄色	水色	緑色	白色	黒色	桃色	肌色	青色	緑色	白色	黄色
15	1/2											
20	3/4											
25	1											

表中の 印は対応範囲を示します。底流量カートリッジ内蔵コアの色についての詳細はカタログを参照ください。

構造



この図は代表的な構造を表しています。

第 編 構造と機能

ボールバルブに流量制御用の定流量カートリッジを内蔵していることにより、『全開』『全閉』用および、流量制御用として使用可能です

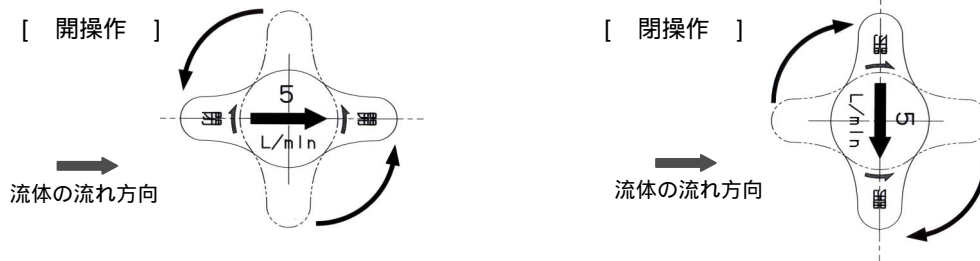
定流量カートリッジは、バルブ本体から容易に取り外しができる構造になっています。また、設定流量ごとに内蔵コアが色分けされていますので混同する心配がありません。

定流量カートリッジは、流体の圧力変動があっても設定された流量に自力で制御できるので、他力式のように作動エネルギーを必要としません。

建設省機械設備共通仕様書のファンコイル用付属の定流量弁の規定に適合しています。

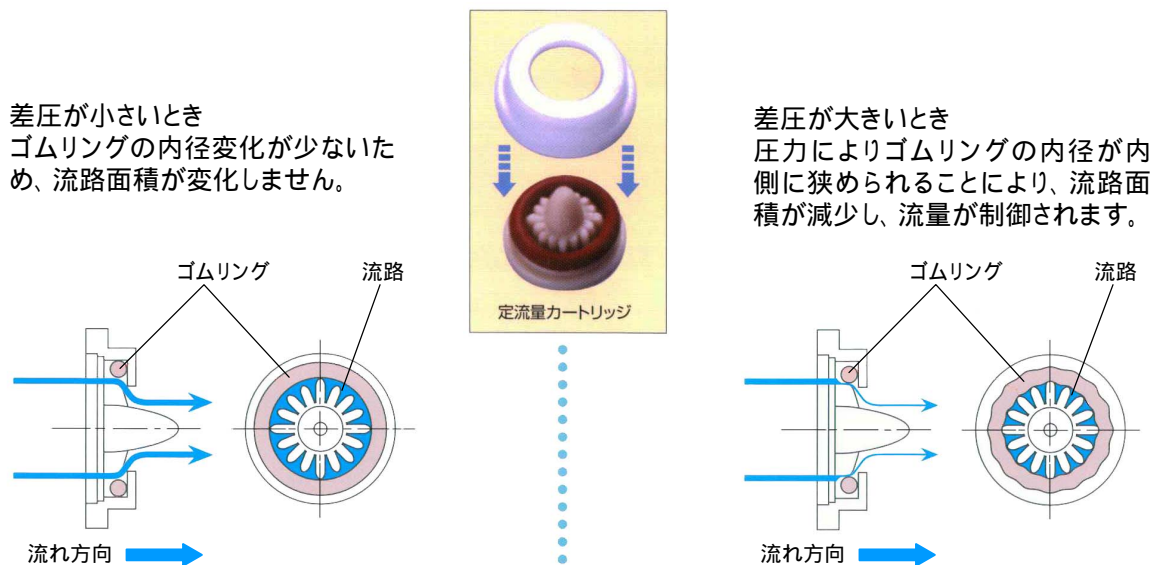
操作方式はハンドル式で、ハンドルの取外しは特別な工具を使用することなく脱着可能です。

閉閉操作はハンドルを時計回りに 90° 回して閉、反時計回りに 90° 回して開となります。



作動原理

定流量カートリッジの作動原理は、定流量カートリッジ内に装着されている特殊ゴムリングの反発弾性力を利用して、差圧によりゴムリングの内径が変化することで、流量を一定に調整します。

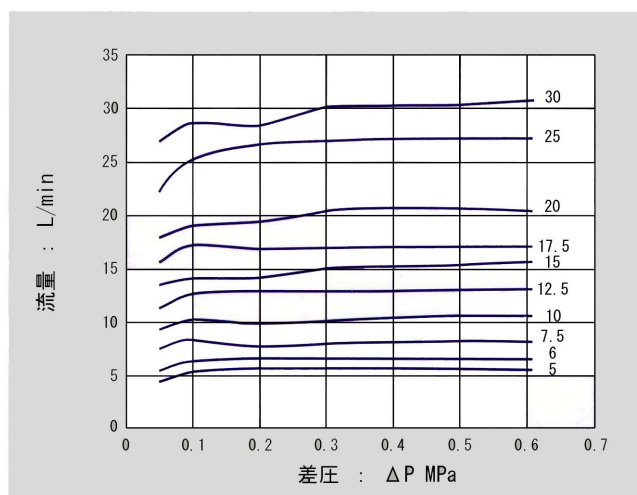


第 編 構造と機能

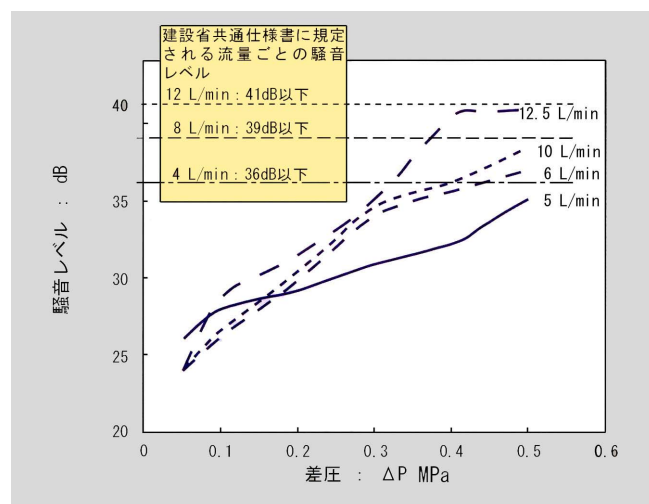
2. 性能

特殊ゴムリングの弾性を利用した定流量機構の採用により、0.15MPa から 0.49MPa(1.5 ~ 5.0kgf/cm²)の差圧範囲内で、設定流量に対して、±10%の制御精度を維持します。

低騒音性に優れ、建設省機械設備工事共通仕様書に規定されているファンコイルユニットの騒音レベル規定に適合しています。(12.5L/minまでの全設定流量)



流量特性



騒音特性



第 編 配管設計

第 編 配管設計

1. 用途

定流量器内蔵ボールバルブ”定丸”は以下のような用途にご使用いただけます。

- ・中高層ビルの地域冷暖房システム、熱交換器・ファンコイルユニットなどでの供給水量の設定
- ・各種スプリンクラー等の流出条件の均等化。
- ・流量計、量水計などへの過流量によるトラブル防止。
- ・その他、定流量が要求される機器・配管ライン。

 注意	
	<p>定流量カートリッジは樹脂材料を採用していることから、使用圧力・温度が限定されます。</p> <p>定流量カートリッジは樹脂材料を採用していることから、残留塩素を含んだ流体では使用しないでください。</p> <p>定流量カートリッジ内のゴムリングは、油に弱いため油分を含んだ流体には使用しないでください。</p>

2. 配管設計時の注意事項

制御精度は、バルブの前後制御差圧が、0.15MPa～0.49MPa(1.5～5.0kgf/cm²)の範囲内で、設定流量の±10%となります。

ご希望の設定流量に該当せず、基準設定流量の間に要求する設定流量がある場合は、1つ上の標準設定流量をお選びください。

ポンプの設定では、バルブの圧力損失(バルブ抵抗)を 0.05MPa(0.5 kgf/cm²)と考えて設計してください。



配管内を流れる流体の圧力変動、流速変化ならびに配管の状態により、騒音や振動などの障害が発生する場合は、事前に以下の対策を講じてください。

バルブは、原則として機器類の1次側(上流側)に配管し、バルブの2次側の圧力を高くしてください。

バルブが配管されている前後の差圧が、0.29 MPa(3 kgf/cm²)以下程度になることをお奨めします。

特にバルブの前後制御差圧が、0.49 MPa(5 kgf/cm²)を超える場合は、必ず減圧弁などで減圧してください。

事前に高差圧や高流速が見込まれる箇所には、バルブの前後に流量調整が可能なバルブを配管し、調整することをお奨めします。



 注意	
	<p>本書に記載している定流量特性は、常温水(20)でのデータです。特に高温水でのご使用の場合、定流量器の制御部の特性に伴い、50 で 2～3%程度の流量低下がありますのであらかじめ考慮ください。</p> <p>バルブの使用時では、水撃(ウォーターハンマ)現象等による衝撃を起こすと定流量器のゴムリングが損傷や飛び出す恐れがありますので、未然に防ぐようにしてください。</p>

第 編 運搬・保管

第 編 運搬・保管

1. 運搬

運搬時の注意事項

 注意	
	段ボール箱梱包の場合、湿気等で箱の強度が低下し、梱包が壊れて製品を損傷することがありますので、十分注意をしてください。




運搬について

バルブの移動や配管施工される現場までの運搬は、納入された梱包・荷姿状態を維持してください。

バルブを投げ出したり、落下・引きずり・転倒等の衝撃を与えないでください。

2. 保管

保管時の注意事項

 注意	
	<p>腐食性ガスの雰囲気中には保管しないでください。ねじ部等から腐食を発生させ、機能を損ないます。</p> <p>保管中に製品を落下・転倒・振動させたり、重い荷重を掛けないでください。バルブの機能を損ねる場合があります。</p> <p>製品を重ねて保管しないでください。荷崩れにより人身及び製品を損傷させる恐れがあります。</p>
	保管中は、ボールを「全開」にしておいてください。「半開」で長期保管しますと、ボールシートを変形させ、シート漏れの要因となります。

保管について



バルブは、屋内でゴミや粉塵・湿気が少なく、通気の良い場所に保管しビニール袋から出さないでください。

バルブは、梱包状態で木枠等の上に保管し、直接地面やコンクリートの上に置かないでください。

第 編 配管取付

第 編 配管取付

1.設置に関する注意事項

 注意	
	<p>バルブの設置場所は、操作及び作業に必要な足場を確保してください。</p> <p>バルブの設置場所は、操作に必要な照度を確保してください。</p> <p>配管がバルブの質量あるいは操作によって過大な荷重を受けないように、必要に応じて配管にサポートを施してください。</p>

バルブの設置場所は、ハンドルの高さ、弁棒の向き等の操作性を考慮し、安全かつ容易に操作及び保守ができる空間(スペース)が必要になります。

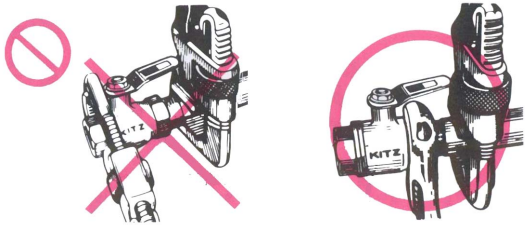
やむを得ず狭い場所にバルブを設置する場合には、操作、点検及び保守に支障のないよう配慮してください。

振動その他の外力によって、その機能が阻害される恐れのある場所への設置はできるだけ避けてください。

第 編 配管取付

2. 配管に関する注意事項

⚠ 警告	
!	高所で作業を行う場合は、下に人が入らない等、安全に十分注意してください。

⚠ 注意	
⊘	配管取付けの際、バルブを分解しないでください。(弁箱/ふた)
!	<p>配管取付け時にねじ込み部及びシート面は損傷のないよう作業してください。</p> <p>ねじ込み部のシール材は、温度・流体等に適したものを使用してください。</p> <p>バルブにパイプレンチを掛けることは絶対に避け、スパナ等の適切な工具を使用してください。</p> <p>バルブの取付けは、接続する配管に近い側のスパナ掛け部を使用してください。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>機器接続側のニップルをねじ込む際は、流路内の二面を利用し締付けを行ってください。パイプレンチは使用しないでください。</p> <p>配管取付けの際、弁箱とふたの接合ねじが緩む方向(左周り)に、力を加えないようにしてください。</p> <p>配管のねじ込み過ぎによる突当てのないよう、十分注意してください。</p> <p>配管取付け時は、ボールの球面を保護するため、バルブを『全開』の状態で行ってください。</p> <p>バルブの配管取付け前に、配管内部のスパッタ、スケールなどの異物を完全に除去してください。</p>

第 編 配管取付

バルブを配管される前に、必ずハンドル上面に表示してあるシールの「流体の流れ方向(矢印)」と「設定流量」の表記内容を確認して接続してください。

ユニオンナットはあらかじめ仮締めしておりますので、外す際はガスケットと定流量器が紛失しないようにしてください。締め付ける際には、ガスケットと定流量器が組み込まれていることを確認してからユニオンナットを締め付けてください。

バルブを取り付ける前に、配管内部のスパッタ、スケールなどの異物を完全に除去してください。異物があると定流量器に詰まり、作動不良の原因となると共に、ボール球面やシート面を損傷して弁座漏れの原因となります。

配管取り付け後にフラッシングが必要な場合は、事前にバルブを「全開」状態にし、内蔵されている定流量器を取り出すか、又はバルブの手前に、40～60 メッシュ相当のストレーナを設置することをお奨めします。

バルブの最高制御差圧範囲は、0.49MPa(5.0 kgf/cm²)です。この範囲を超える場合は、減圧弁などで調整してください。

定流量カートリッジ内のゴムリングは油に弱いので、油洗浄および油の使用は避けてください。

パイプのねじは、必ず JIS 規格範囲内のねじをご使用ください。JIS 規格を外れると、バルブを損傷する恐れがあります。また、パイプ端面は管軸と直角とし、バリ、カエリのない平滑な面に仕上げてください。パイプ内の切削油は、バルブに油溜りを起こし、所定の機能が損なわれますので、あらかじめ除去してください。

ねじ接合の場合、パイプのねじ込み過ぎによる管端突き当てのないように十分注意してください。弁座漏れ、作動不良等、性能・機能を損ねる恐れがあります。

バルブの取り付け作業は、パイプレンチを掛けることを絶対に行わないでください。スパナ等の適切な工具を用い、必ず取り付けパイプに近い側のスパナ掛け部を使用してください。パイプレンチを掛けると、バルブ本体の変形・損傷を起こし、外部漏れの原因となります。

ねじ接合の際、バルブの本体とふたの接合部が緩む方向(左回り)に力を加えないでください。外部漏れの原因になります。

機器接続のユニオンニップル(おすネジ)をねじ込む際は、ニップル内部(流路)に設けられた、二面部にモーターレンチなどの適当な工具を使用しねじ込んでください。

呼 び 径	1/2	3/4	1
二面幅寸法 mm	12	14	19



配管にバルブをねじ込む場合には、過大なトルクを加えないようにしてください。ねじ込みトルク値は下表に示す値の範囲としてください。

呼 び 径	1/2	3/4	1
N-m	20～29	39～49	49～59

第 編 操作・運転

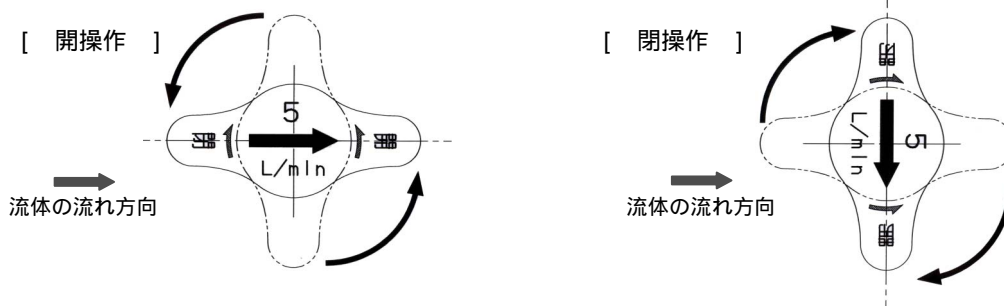
第 編 操作・運転

1.バルブの操作に関する注意事項

⚠ 注意	
	<p>開閉の際、ハンドルにパイプやハンドル回し等を使用する等、過大なトルクを掛けないでください。</p> <p>流体が加圧状態のとき、定流量カートリッジ取付部、ふた接続部、配管取付け部を絶対に緩めないでください。</p> <p>中間開度での長時間の使用はしないでください。長時間中間開度で使用するとボールシートを損傷することがあり、シート漏れの原因となります。</p>
	<p>定流量器内蔵部ユニオンナットはあらかじめ仮締めしております。ご使用前に増し締めを行ってください。</p> <p>配管ラインの圧力テストや漏れチェックを行う際、バルブは必ず「全開」にしてください。「閉」の状態を実施されるとシートが圧縮変形を受け、その後においてシート漏れを生じる場合があります。</p> <p>凍結が予測される場合は、凍結予防対策を施してください。</p>

2.バルブの開閉

ハンドルを時計回りに 90° 回して閉、反時計回りに 90° 回して開となります。



第 編 操作・運転


3. 運転中の日常点検

使用中のバルブ管理は、日常点検と運転中の検査とによって行われます。日常点検と運転中検査は下記の通りです。

現象	点検箇所	点検方法	処置
流体の外部漏洩	各ねじ部	目視 石鹼水	各ねじ部の増締め
	バルブ表面	目視 石鹼水	バルブの交換
異音発生	バルブ自身	聴音	配管技術者に連絡・処置
	配管の振動	聴音	配管技術者に連絡・処置
ねじ部の緩み	各ねじ部の緩み	目視 手感	各ねじ部の増締め
シート漏れ			異物の除去 バルブの交換
バルブの作動状況	開閉位置の確認	目視	指示通りの開閉位置にする
	操作が重い (作動しない)	手感 聴音	バルブの交換
設定流量低下	定流量カートリッジ	分解 清掃	定流量カートリッジの清掃

第 編 操作・運転

4.異常発生時の処置

⚠ 注意	
	保護眼鏡、作業手袋、安全靴等の保護具を身に付けて作業を実施してください。

定流量カートリッジ内蔵ユニオン部分からの漏洩

定流量カートリッジ内蔵部のユニオン部から漏洩している場合は、ユニオンナットの増締めを実施してください。

増締めを実施後、漏れの改善が見られない場合は、定流量カートリッジ内蔵部ユニオンナットを外し、ガスケットを交換してください。

5.故障と処置

故 障	推 定 原 因	処 置
バルブの開閉不能	ボールシート及びキャビティ内に異物が挟まる	バルブの交換
バルブの操作トルクが異常に大きい	弁棒に異物が噛み込む	バルブの交換
	ボールシート及びキャビティ内に異物が挟まる	バルブの交換
弁棒部からの漏れ	Oリングまたはグランドパッキンの損傷	バルブの交換
全閉時にシート部から漏れ	ボールシートの損傷	バルブの交換
騒音・振動の発生	ユニオンナットの緩み	増締め
設定流量低下	定流量器の異物によるつまり	分解点検

第 編 定期点検

第 編 定期点検

1. 定期点検

バルブの定期点検は、配管に取付けられた状態で1年に1回程度実施してください。

バルブが円滑に機能を果たし、また保安上支障のない状態であることを確認してください。



点検項目及び点検方法は日常点検と同様です。第 編『運転中の日常点検』を参照ください。



日常点検を行わないバルブや日常開閉操作を行わないバルブも、定期点検時には点検を実施してください。(全てのバルブを点検してください。)

2. 保守検査

バルブが取付けられた配管設備が保安検査のため開放される場合は、必要に応じて弁座・外部漏れ検査、作動検査を実施し、弁座・外部漏れ、作動不良等の兆候が認められた場合は購入先または最寄りの営業所にお問合せください。

配管からの取外し、取付け時の注意事項

 警告	
	<p>バルブを配管から取外す時は、必ず配管内の流体を除去し、圧力を大気圧に戻してください。</p> <p>全閉状態ではバルブ内に圧力・流体が封入されている場合があります。バルブを取外す前に必ずバルブを半開にし、圧力・流体を除去してください。</p> <p>流体が体にかからないように十分注意をして実施してください。</p> <p>高所で作業を行う場合は、下に人が立ち入らない等安全に十分注意をして作業を行ってください。</p>

 注意	
	<p>保護眼鏡、作業手袋、安全靴等の保護具を身に付けて作業を実施してください。</p> <p>バルブの取外し及び取付け作業場所は、作業に必要な足場を確保してください。</p> <p>取外す際には、取外す配管に近い側のスパナ掛け部を使用してください。</p>

分解・組立

分解・組立作業は、『分解要領』『組立要領』を参照して実施してください。

第 編 定期点検

試験・検査

試験・検査については下記事項を確認してください。

(1)作動試験

- ・ハンドルの操作は容易であり、各運動部にかじり、食いつきがなく適切に作動すること。
- ・弁棒とボールの結合、連結は確実であり、緩みのないこと。
- ・弁全開位置では、ボールの口径部の中心は、ボールシートの中心に対して同心の位置にあること。ボールののぞきはボール口径端面に設けた R の範囲であること。

(2)弁箱耐圧試験及び弁座漏れ試験

- ・弁箱耐圧試験及び弁座漏れ試験時の注意事項

⚠ 注意	
!	<p>保護眼鏡、作業手袋、安全靴等の保護具を身に付けて作業を実施してください。</p> <p>弁箱耐圧試験及び弁座漏れ試験は安全に十分注意して実施してください。</p>

組立を終了したバルブは、所定の水圧または空気圧により弁箱耐圧及び弁座漏れ試験を JIS B 2003 等の規格を参考に行い、所定の基準に合格することを確認してください。

第 編 分解・組立

第 編 分解・組立

1. 定流量カートリッジの交換要領

定流量カートリッジ交換時の注意事項

⚠ 警告	
!	<p>バルブ内に残っている流体が体にかからないように十分注意をして実施してください。</p> <p>バルブ弁箱とふたは分解しないでください。</p> <p>バルブ弁箱とふたを分解・組立てされた商品での不具合につきましては、弊社では責任を負いかねます。</p>
⚠ 注意	
!	<p>保護眼鏡、作業手袋、安全靴等の保護具を身に付けて作業を実施してください。</p> <p>作業の際、手や指を挟まないように注意をして実施してください。</p> <p>バルブを配管から取外す時は、必ず配管内の流体を除去し、圧力を大気圧に戻してください。</p> <p>全閉状態ではバルブ内に圧力・流体が封入されている場合があります。バルブを取外す前に必ずバルブを半開にし、圧力・流体を除去してください。</p> <p>バルブの取外しは、バルブにパイプレンチを掛けることは絶対に避け、スパナ等の適切な工具を使用してください。</p> <p>バルブの取外しは、取外す配管に近い側のスパナ掛け部を使用してください。</p>

分解は粉塵の少ない場所で行ってください。

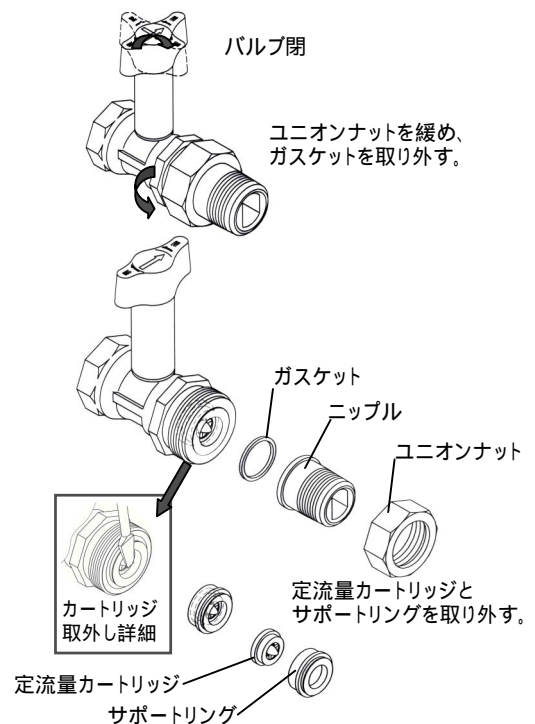
定流量カートリッジの交換時は、作業に必要な空間を確保してください。

定流量カートリッジの交換方法

バルブを全閉の位置にしてください。

ユニオンナットを緩め、ガスケットを取り外してください。

定流量器とサポートリングとの隙間部または定流量カートリッジの隙間部に、ドライバー等の先が尖った工具を使用して、サポートリングまたは定流量カートリッジを取り外してください。



第 編 分解・組立

2. 組立要領

組立時の注意事項

⚠ 注意	
!	<p>保護眼鏡、作業手袋、安全靴等の保護具を身に付けて作業を実施してください</p> <p>作業の際、手や指を挟まないように注意をして実施してください。</p>

組立にあたって

部品は必要な点検を行い、機能を満足しない場合は部品またはバルブを交換してください。

再使用の部品は必ず洗浄し、油、ゴミ等の汚れを完全に除去してください。

組立は粉塵の少ない場所で行ってください。

各ねじ部の締め付けは、確実に行ってください。

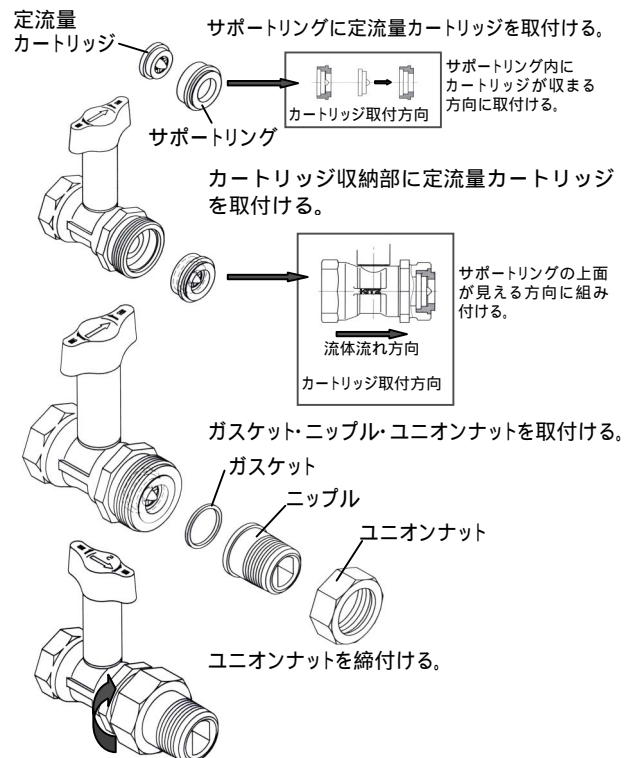
組立

サポートリングに定流量カートリッジを取付けてください。
このとき、カートリッジの取付け方向に注意してください。

ふた、カートリッジ収納部にサポートリングを組み込んだ定流量カートリッジを取付けてください。
このとき、カートリッジの取付け方向に注意してください。

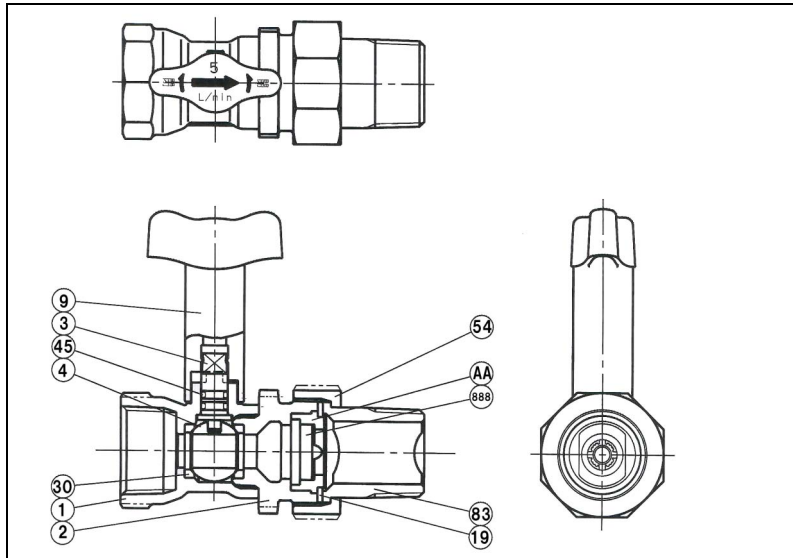
サポートリング凸部にガスケットを取付け、ニップル・ユニオンナットを取付けてください。

ユニオンナットを締め付けてください。



第 編 分解・組立

3. 構造図



部 品 名	
1	弁箱
2	ふた
3	弁棒
4	ボール
9	ハンドル
19	ガスケット
30	ボールシート
45	Oリング
54	ユニオンナット
83	ユニオンニップル
AA	サポートリング
888	定流量カートリッジ

この図は代表的な構造を表しています。

分解・組立ての際は納入品図を参照の上、実施してください。

4. 流量設定変更方法について

ご希望の設定流量に該当せず、基準設定流量の間に要求する設定流量がある場合は、1 つ上の標準設定流量をお選びください。

設定流量変更時は以下に示す関連部品の共通関係にご注意ください。

カートリッジ交換時は、ガスケットについても交換していただけるようお願いいたします。

RTUC15 カートリッジ交換関連部品

部番	設定流量	5L 設定	6L 設定	7.5L 設定	8L 設定	10L 設定	12.5L 設定	15L 設定	17.5L 設定
19	ガスケット	ガスケット (21*30*1.5)							
888	定流量カートリッジ	5L/min	6L/min	7.5L/min	8L/min	10L/min	12.5L/min	15L/min	17.5L/min
AA	サポートリング	サポートリング RTUC1/2							

RTUC20 カートリッジ交換関連部品

部番	設定流量	5L 設定	6L 設定	7.5 設定	8L 設定	10L 設定	12.5L 設定
19	ガスケット	ガスケット (21*30*1.5)					
888	定流量カートリッジ	5L/min	6L/min	7.5L/min	8L/min	10L/min	12.5L/min
AA	サポートリング	サポートリング RTUC1/2					
部番	設定流量	15L 設定	17.5L 設定	20L 設定	25L 設定	30L 設定	
19	ガスケット	ガスケット (21*30*1.5)					
888	定流量カートリッジ	15L/min	17.5L/min	20L/min	25L/min	30L/min	
AA	サポートリング	サポートリング RTUC1/2			サポートリング RTUC3/4		

RTUC25 カートリッジ交換関連部品

部番	設定流量	25L 設定	30L 設定
19	ガスケット	ガスケット(27*38*1.5)	
888	定流量カートリッジ	25L/min	30L/min
AA	サポートリング	サポートリング RTUC 1	